

「海上の森」における学習会の報告

1. 目的

近年、都市近郊の里山において手入れがなされず放置されている森林が増加し、人が立ち入りにくい鬱蒼とした森林が目立つとともに、竹の侵入も拡大しています。それにより里山の森林が発揮する、生物多様性維持、保健休養、水源かん養、土壌侵食防止などの公益的機能の劣化が危惧されています。そのため、人とのつながりで維持されてきた里山の森林を回復させることが求められています。

今回の学習会は本センターの地域貢献活動の一環として、里山の森林の役割を学ぶとともに、その機能を維持・発揮させるために必要な間伐作業について体験することを目的に、海上の森で実施いたしました。

2. 学習内容

開催予定日の11月14日（土）が雨天であったため、翌日15日（日）に順延して行なった。参加者は学習センターから13名（学生11名、職員2名）と、指導いただいたNPO法人「海上の森の会」から3名と愛知県「あいち海上の森センター」から1名であった。

集合場所から講義を受ける里山サテライトまでの徒歩移動の途中で足を止め、山歩きの注意事項とともに、海上の森の植生、基岩、土壌などの成り立ちについて説明を受けました。里山サテライトでは午前中にパワーポイントによる講義（海上の森において繰り返された「はげ山」と森の再生の歴史、人工林の手入れ不足の現状、間伐の効果及び間伐作業の手順など）を受けました。その後、指導員によるチェーンソーを用いた樹木伐倒の実演を見学しました。

午後からは、参加者は2班に分かれ、それぞれ指導員の下にノコギリでヒノキ小径木の伐倒を行いました。伐倒木は枝を払い、一定のサイズに切り、斜面における土壌の侵食・流失を防ぐために等高線沿いに積み上げ、土留めを作りました。このような一連の間伐作業を身をもって体験しました。

3. アンケート結果の概要

里山サテライトでの講義もヒノキ林での間伐作業も勉強になり、大変よかったという回答がほとんどで、学習会の内容に満足された様子が伺われました。参加者は斜面に立つヒノキを伐採するのは初めての経験であり、間伐作業の大変さと必要性を理解されたようです。1日順延したことで天候にも恵まれ、また日頃使うことのない筋肉を動かしての作業で、楽しみながら良い汗をかきました。以下に、アンケートの記述回答から、ご意見と要望の一部を抜粋して載せます。

【今回の学習会へのご意見】

- ・里山保全の大切さがより深く学べた
- ・間伐作業が想像以上にハードな作業である
- ・友人にも教えてあげようと思います

【今後の要望】

- ・もっと広く多数の人に PR をお願いいたします
- ・今回のような体験型企画はありがたい
- ・今回の企画のようなアウトドアの学習会を開催されると良い

4. 学習会の写真



写真1 「海上の森」の立地環境の説明



写真2 ヒノキの間伐作業



写真3 枝払いと玉切り作業



写真4 かかり木のためのロープ掛け作業